兵庫県立いなみ野特別支援学校　あおの訪問学級通信

わかくさ

R4.2.17
発行
第 386 号

新しい年に入って早や2ヶ月。3学期も残すところ後1ヶ月となりました。今年の冬は、寒気が流れ込み、冷え込みが強い日が多くありました。兵庫県では、1月末からまん延防止重点措置が適用されました。2月に入ってからは、北播磨管内でも感染が拡大し、あおの病院の指示を受けてあおの訪問学級は、2月4日から当面、院内での感染防止のため臨時休業の措置を取っています。

児童生徒たちは3学期に入り、お正月を題材にした学習に取り組みました。初詣、おみくじ、餅つき、凧あげなど工夫を凝らした教材で、日本の伝統文化に触れて楽しんでいた様です。また、先生方が雪が降った時に袋越しに触る雪の冷たさにびっくりした様子を話されていました。そして、本校高等部3年生とあおの高等部3年生の生徒がリモートでの授業の生活単元学習での交流をしました。自己紹介をしたり一緒に楽器演奏したりして楽しく過ごすことができました。12月のわかくさでお伝えしていました「みんなのアート展」が令和4年1月19日～22日に兵庫県立美術館で開催され、あおの訪問学級の児童生徒の作品が展示され、多くの来場者の目をひいていました。

今後につきましては、病院と相談をしながら、授業再開に向けて協議していきます。保護者の皆様におかれましては、これまで同様に、ご理解とご協力をよろしくお願いします。何か状況に変化があればホームページ等でお知らせします。

（教頭　月野木　和彦）

３月の予定　　**１６日（水）**　**令和３年度卒業証書授与式**
２３日（水）　**修了式**

東2病棟

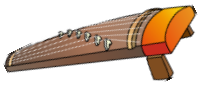
東2は新年を迎え、少し見ない間に「こんなこともできるようになったんだな」と成長を感じました。新学期が始まり、毎日やる気満々で楽しく授業に取り組んでいます。1月はお正月あそびをはじめ、冬の学習など児童生徒にとって楽しい学習がいっぱいでした。凧あげをしたり、獅子舞に噛まれたりと、意欲的に取り組むことができました。また、雪が降った時には、袋に入れた本物の雪を触って大喜びでした。3学期もたくさんの笑顔と成長を楽しみにしています！

東3病棟

1月は、主に疑似物を用いながらお正月の行事や遊びの体験を通して学習しました。『春の海』『1月1日』等の音楽を聞いたり、初詣で賽銭を賽銭箱に投げ入れ、おみくじを引いたり絵馬に願い事をかいて素敵な1年になることを願ったりしました。また、晴着を着たり、獅子舞に頭を噛んで厄払いをしてもらったりしました。お餅つきでは、白いタイツをお餅に見立て、ビヨ～ンと伸びるのを感じたり、羽根つきや凧揚げ、百人一首等、お正月ならではの遊びを楽しんだりしました。

西2病棟

西 2 では、「お正月」と「冬」をテーマにした学習に取り組みました。「お正月」の学習では、タブレットの動画を使って初詣に出かけて、おみくじを引きました。大吉が出た人もいました。絵馬には「今年も元気で学習できますように」と、願い事を書きました。餅つきや凧揚げ、羽根つきなど昔ながらの遊びや行事にも取り組みました。また、本校から借りた琴をつま弾く体験もしました。大きな本物の琴に興味津々で、笑顔で琴にふれることができました。「冬」の学習では、寒くなると雪が降ることを学習し、疑似の雪玉にふれる体験をしました



西3病棟

正月くじ、お年玉、獅子舞等、お正月の雰囲気を感じました。正月遊びの羽根つき、手作りの凧あげ、こま回し、ミニサイズの餅つきでは、手を大きく動かす、微笑む等、それぞれの方法で楽しんでいました。また、みかんを片手や両手で持って転がす等、感触を味わっていました。教室に登校した生徒は、お琴に触れて音を聞いたり、ヒヤシンスの観察をしたりしました。いなみ野特別支援学校の本校生徒とのリモート交流では、手話歌、キーボードやウッドブロックの楽器演奏、ポンポンでダンスをし、大勢の友だちの声に柔らかな声を出していました。